

## 終点

蛇のぬらりと土を這い  
私の目より憂鬱なる力よ  
血をたらたらと流せ

コントラバスのぶよぶよと呻き  
なま暖き肉体よ、汗の沁みた床に  
さらにねっとり涎をたらせ

豊饒の息苦しい濃密な甘さに  
呻き、吐き、波打つがいい  
毒を盛るのだ、愛という毒を

お前は知り尽くしてしまったのか  
馬鹿な、そんなはずはない  
凡俗な人間達がこの無を怖れていたなどと  
馬鹿な、そんなはずはない  
欠伸顔の老人どもの説教が真実だなどと  
俺にはもう干からびるしかないのだなどと  
馬鹿な、ああ馬鹿な  
そんなはずはない・・・

(1985.1.2)